

JCV Annual Report 2013 20th Anniversary



**20th
Anniversary**

団体名 認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会
住所 〒108-0073 東京都港区三田 4-1-9 三田ヒルサイドビル 8F
連絡先 TEL : 03-5419-1081 FAX : 03-5419-1082 E-mail : info@jcv-jp.org
WEB www.jcv-jp.org
Facebook www.facebook.com/one.polio

この冊子は、支援企業のアーク・フロント株式会社様の協力を得て、制作いたしました。



ワクチンで助かる ちいさな命を救いたい



20 年間活動を支えてくださったみなさまへ

1994 年の創立以来、20 年間この活動を続けさせていただいたことに、心から感謝いたします。子どもワクチン支援活動を始めたきっかけは、創立当初1日に 8,000 人もの子どもたちが感染症で亡くなっているという事実衝撃を受けたことです。しかも、その命はわずかな金額のワクチンさえあれば、助けることができることを知ったからです。

私たちは子どものころ、当時の先進国からミルクや医薬品を援助してもらい、多くの恩恵を受けました。受けたら今度はお返しをする。そんな当たり前の「おたがいさま」の精神で活動してまいりました。ミャンマーを皮切りに、アジアを中心とした開発途上国から支援を始め、今では南太平洋上の国やアフリカの国々への支援へと活動を広げるなかで、私自身や私の仲間たち全員が、本当の幸せとは何か、豊かな心とは何かということを考えさせられ、大切なことを学ばせていただきました。

経済大国が貧しい国に何かしてあげるといふ援助ではなく、おたがいで「ありがとうのキャッチボール」ができることが本当の支援だと思っています。

決して傲慢にならないように「させていただく」という気持ちが大事です。あらゆる面で恵まれた国に生まれた私たちにできることはいっぱいあるはずです。誰もが持っている、助けあう気持ちや思いやる気持ちを、勇気を持って行動に移すことが、最も大切だと思います。

そうした行動の輪が広がって、社会は自然に良くなっていくのだと思います。

長くご支援くださっているみなさま、そしてこれから新たに参加してくださるみなさま、これからも「ありがとうのキャッチボール」を多くの方に知っていただき、未来へつなぐリレーを続けていきたいと思いますので、あたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

認定 NPO 法人
世界の子どもにワクチンを 日本委員会

理事長 **細川佳代子**

ワクチンが無いために亡くなる 子どもの数、1日4,000人

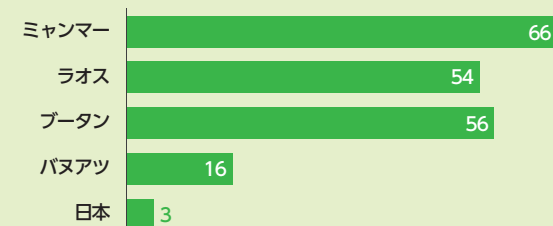


感染症の脅威

子どもたちの命を脅かす六大感染症（ポリオ、はしか、結核、ジフテリア、百日咳、破傷風）は、定期予防接種の普及により、日本での発症例は非常に少なくなりました。しかし、自力でワクチンを調達できない開発途上国では未だに大きな脅威となっています。ポリオ、麻疹、風疹などの感染症は感染力が強く、一人の感染者が発生すると、多くの人に広がる危険性があります。特に子どもは命を落としたり、脳炎などの重篤な合併症により後遺症が残ったりします。また、ワクチン接種を受けていない妊婦が風疹にかかると胎児が風疹ウイルスに感染し、難聴、心疾患など先天性の障がいをもった子どもが生まれることがあります。ワクチンさえあれば防げる感染症を予防することは、こうした危険を未然に防ぐことなのです。

また、感染症の脅威はそれだけにとどまりません。グローバル化が進んでいる現在、世界は大変小さくなっています。ビジネス、旅行、移民などで人の移動によって感染症は瞬間に広がり、人々の健康や生命を脅かして社会全体に深刻な悪影響をおよぼします。感染症に国境はないのです。子どもたちは親にとっての宝物だけでなく、将来の社会の担い手となる大切な財産でもあります。その財産となる子どもの数が減ってしまうことは、大きな社会の損失、すなわち国力を失うことになります。乳幼児のうちに決められたワクチン接種が求められる理由はここにあるのです。

5才未満児死亡率（出生 1,000 人あたり）



出典：UNICEF「世界子供白書 2012」
※バヌアツは同書に記載がないため、「世界子供白書 2011」の数値

ワクチンで助かる 小さな命を救いたい



世界の子どものワクチンを 日本委員会誕生

1990 年、ニューヨークの国連本部で開催された「子どものための世界サミット」に 159 国が集まり、ワクチンが足りないために世界中で多くの子どもたちが感染症で命を落としていることが議論されました。これを受け、1993 年に京都で開催された「子供ワクチン世界会議」で、先進国は開発途上国の子どもたちのために必要なワクチンを供給しなければならない、という「京都宣言」が採択されました。そして 20 年前の 1994 年、途上国へワクチンを贈り、子どもたちの未来を守る活動を行うために、世界の子どものワクチンを 日本委員会（以下、JCV）が創立されました。

JCVの活動

①贈る

みなさまから寄せられたご寄付を、支援先国からの要請に基づいたワクチンに換えて子どもたちに届けています。

②広める

感染症の実態やワクチンによる予防効果などを伝える事はもちろん、それらの活動を支える力を広めるべく、国際支援や寄付文化、ボランティア活動への理解を深めることを目指して、日本国内で様々なイベントを開催しています。

③未来につなげる

ミャンマーサイクロン、東日本大震災などの大規模災害発生時に、子どもたちを対象とした緊急支援活動を行っています。



社会主義国から届いたワクチンの恩恵 ソビエト連邦



1961
from the Soviet Union to Japan

わずか 50 年ほど前の日本では、5 歳未満の子どもたち 1,000 人のうち 30 人が亡くなるという、現在の開発途上国と同じ状況でした。そして、1950 年代後半の日本では、ポリオが流行の兆しをみせていました。

1960 年 2 月に、北海道夕張地区で多くのポリオ発症者が確認され、瞬く間に北海道全域、日本全土へと感染が拡大しました。1960 年の北海道全体のポリオ発症者は 1,609 人、死者は 106 人、日本全国の発症者は 6,000 人を超え、国民の不安が高まりました。同年、日本で不活化ポリオワクチンの製造が本格的にはじまり、1961 年から定期接種が開始されましたが、日本製のワクチンでは十分な免疫がつかず、効果不十分と判断されました。輸入ワクチンしか使えない状態となりましたが、日本国内での備蓄は限られており、ついにポリオワクチンの在庫がなくなるという緊急事態に陥りました。そこで 1961 年、ソビエト社会主義共和国連邦（当時）などから 1,300 万人分の経口生ポリオワクチンが緊急輸入されましたが、当時は第二次世界大戦後の緊迫した冷戦体制下であり、資本主義国の日本が社会主義国からワクチンを輸入するということは超法規的措置といえるものでした。そして、輸入されたワクチンで世界初の徹底した NID（全国一斉予防接種日）を実施。ポリオの感染も急激に抑えられ、1963 年の発症者数は 100 人以下となりました。その後、1964 年以降は経口生ポリオワクチンの 2 回接種が定期予防接種に導入され、2012 年 8 月まで続けられました。1980 年以降、日本では自然発生のポリオは確認されなくなり、日本からポリオを根絶することができました。



© 日本ユニセフ協会

原始の島へのワクチン接種普及 バヌアツ共和国

イギリスとフランスの共同統治国であったという歴史的経緯からエファテ島にある首都ポートビラではヨーロッパ式の生活スタイルが定着しているバヌアツ共和国。しかし、ポートビラから一歩外に出ると、多くの人は伝統的な生活を守って暮らしています。なかでもタンナ島には、原始的な生活を維持している村が点在しています。私たち JCV と UNICEF の視察団は 2012 年 3 月、イアナウラウル村に入りました。沿岸の町から鬱蒼とした森で隔てられているこの村は、地元の人もその存在を知らないほどで、男性はペニスケース、女性は腰ミノという伝統的な姿で現在も暮らしています。ファーストコンタクト（下記写真）では、村人はまだワクチンの存在を知らず、当然接種も行われていませんでした。それから 1 年、UNICEF と保健省からの懸命な説明により、イアパ酋長はワクチン接種を受け入れました。2013 年 11 月、私たちが村を訪れたときインタビューに答えてくれた 5 人のお母さんは全員、町の病院へ行って子どもたちに接種を受けさせていました。そして、酋長は「小さい子どもの病気が減った」と話してくれました。

南太平洋に浮かぶ 83 の島からなるバヌアツでは、それぞれの島の間での人や物資の移動、そしてコミュニケーションが容易ではありません。そのため、ワクチン接種への理解を高めることもワクチンを届けることも大きな困難が伴います。自然の障壁を乗り越えて、バヌアツのすべての子どもたちがワクチン接種を受け、健やかに成長できるよう私たちは現地 UNICEF、保健省とともに協働しています。



2013
from Japan to Vanuatu

ワクチン支援活動 20年の歩み

1993年 「子供ワクチン世界会議」に細川が参加 2002年 NPO 法人格取得
1994年 JCV 創立（任意団体として） 2006年 認定 NPO 法人認可取得（以後継続）

①贈る



1996年 ミャンマーへの常時支援開始



2008年 ブータンへの常時支援開始



2010年 タジキスタンへの緊急支援実施



2012年 マダガスカルへの準常時支援開始



2007年 ラオスへの常時支援開始



2010年 パプアニューギニアへの常時支援開始

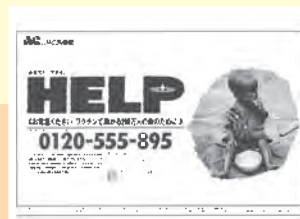


2011年 ソマリアへの準常時支援開始



2013年 シリアへの緊急支援実施

②広める



1994年 AC 広告スタート



2005年 竹下景子さんワクチン大使に就任



2009年 第一回「JCV ワクチンシンポジウム」開催



2012年 第二回「JCV ワクチンシンポジウム」開催



2005年 和田投手「僕のルール」はじめる



2008年 第一回「僕のルール・私の理由」エッセイコンテスト開催



2011年 WEB 募金「寄付次郎®」オープン



2013年 AC 広告「未来をありがとう」編

③未来につなげる



1998年 はじめてのスタディーツアー実施



2008年 ミャンマーサイクロン被害緊急支援



2009年 「京都子どもワクチンフォーラム」開催



2011年 東日本大震災被災地支援「JCV 子どもの笑顔プロジェクト」開始



2014年 20周年記念プロジェクト「ポリオ撲滅キャンペーン」開始



僕のルール

「1 球投げるごとに 10 人分のワクチンを寄付する」という、当時福岡ソフトバンクホークスの和田毅投手が宣言した寄付のルールが、AC 広告により「僕のルール」として広まりました。以後、自分にあった方法やペースで、また、自分の励みにして楽しみながらできるものとして、寄付への敷居を下げ、寄付文化に革命を起こしたと言われています。

①贈る 後発開発途上国とワクチン接種事情

私たちが注力して支援している後発開発途上国とは、一人あたり の GNI (国民総所得) が 992 米ドル以下で、栄養不足人口率、5 歳未満児死亡率、中等教育就学率、成人識字率や経済的脆弱性などが一定の評価を下回っている特に開発が遅れている国のことを指します。

後発開発途上国が属する地域によって、異なるワクチン接種事情があります。

アジア

アジアにある後発開発途上国 3 カ国を支援しています。これらの国では、産業が未発達なために国家の収入が限られており、自国の医療を満足に支えることができません。経済のほかにも気候、地理的条件や民族問題などが支援先国でのワクチン接種普及の障壁となっています。

Asia

Africa

アフリカ

アフリカにある後発開発途上国 2 カ国を支援しています。これらの国では、内戦や政変によって医療施設が機能しなくなり、保健医療の人材も確保できなくなっています。「最後のフロンティア」と呼ばれることもあるアフリカですが、立ち遅れている社会基盤整備と人材育成がワクチン接種普及を脅かしています。

Pacific

パシフィック

パシフィック (太平洋) 地域にある後発開発途上国 1 カ国を支援しています。リゾート観光産業からの収入は一部の人々や外国資本に集中しており、多くの人々は貧しい生活を送っています。経済だけでなく島嶼国という地理的条件が支援先国でのワクチン接種普及を難しくしている実情があります。



 ミャンマー連邦共和国（1996 年より常時支援）

1995 年に細川佳代子理事長がアジア各国を視察し、ミャンマーから支援活動始める決定をしました。ミャンマーの EPI（拡大予防接種計画）活動は人々に根付いた相互扶助の精神に支えられ正確に行われる土壌があり、確実に支援が活かされると判断しました。しかし、当時のミャンマーは軍事政権下にあり、人道支援も足りていない状況でした。私たちはこれまでに、ワクチンそのものはもちろん、接種まで適切な温度で管理するコールドチェーンに必要な保冷库やワクチン運搬用の車が入れない山岳部へのバイクなどを支援し、現地パートナーの UNICEF とともに、保健省と協力してミャンマーのワクチン接種の基礎を築きました。

経済発展のニュースが入ってくる今日のミャンマーですが、現在でも少数民族問題が壁となり、ワクチン接種を受けることができない子どもたちがいます。社会基盤整備や少数民族問題を解決し、国家が自立して子どもたちのワクチン接種を行えるようになるまで支援が必要です。

2013 年 ミャンマー連邦共和国向け支援実績（金額 101,531,983 円）

ワクチンと注射器	数量	コールドチェーン機器	数量
BCG	11,000,000 人分	ワクチンキャリアボックス	300 個
OPV（経口ポリオ）	3,333,333 人分	コールドボックス	110 個
TT（破傷風）	19,500 人分	温度監視タグ	500 個
注射器	335,000 本	接種機材	1 式
安全廃棄ボックスなど廃棄関係	1 式	ワクチン接種カードおよび教育資材	1 式
コールドチェーン機器	数量	コールドルーム監視資材	1 式
ウォークイン保冷库（20 m）	2 台	トレーニング関係	1 式
ウォークイン冷凍庫（20 m）	2 台	技術サポート	1 式
ソーラー保冷库	50 台		

支援開始からこれまでのワクチン供与のべ人数：870 万人

サイクロン緊急支援

2008 年 5 月 2 日、非常に勢力の強いサイクロン「ナルギス」がミャンマーのエーヤワディーデルタに上陸し、死者 2 万人以上、行方不明者 4 万人以上という甚大な被害をもたらしました。国際社会が緊急支援の意思表示をしましたが、当時の軍事政権は支援金と物資支援のみを受け取る方針をとり、他国からの人的支援は入りにくい状況でした。そのような状況下だからこそ、私たちは緊急募金を実施して現地にスタッフを派遣し、ワクチンの支援を通じて交流のあった子どもたちに学費用品と食器を 5,000 セット届けました。





 ラオス人民民主共和国（2007 年より常時支援）

東南アジア唯一の内陸国であるラオスは、本州とほぼ同じ大きさの国土に人口約 651 万人が暮らしています。アジアに残る後発開発途上国のひとつであるラオスのワクチン接種は、外国からの支援で成り立っており、日本からも JICA（国際協力機構）が支援を行っていました。2007 年に JICA がラオスのワクチン支援から撤退するにあたり、UNICEF ラオスと保健省から要請を受けた JCV が支援を開始しました。全体的に山がちな国土に 49 の民族が暮らすラオスでは、民族によって異なる言語と山間部にある集落への交通アクセスの問題がワクチン接種普及の障壁として立ちはだかっています。そうした問題を少しでも軽減するために、車が入れない地域へのワクチン運搬用のバイク導入支援も開始しています。



2013 年 ラオス人民民主共和国向け支援実績（金額 20,250,557 円）

ワクチンと注射器	数量
BCG	200,000 人分
MR（麻疹、風疹混合）	100,000 人分
TD（破傷風、ジフテリア混合）	66,667 人分
注射器	335,000 本
安全廃棄ボックス	3,250 個
コールドチェーン機器	数量
アイスライン保冷库	10 台
ワクチン運搬用バイク	10 台
コールドチェーン機器スペアパーツ	1 式

支援開始からこれまでのワクチン供与のべ人数：306 万人



 ブータン王国（2008 年より常時支援）

ヒマラヤ山脈の南麓で、インドと中国という大国にはさまれたブータンは九州とほぼ同じ国土面積ですが、標高差が著しく、氷河に覆われた山岳部のツンドラ気候からインドと接する平野部の亜熱帯気候まで、変化に富んだ自然環境をもっています。文化的には日本に近く、モンスーン気候に属する中部の照葉樹林文化とは多くの共通点が見られます。ブータンの EPI（拡大予防接種計画）は 1979 年に始まり、現在では概ね 90%以上のワクチン接種率を維持しています。2008 年から JCV が支援を開始し、2014 年 3 月にはポリオフリーが宣言されました。しかしながら、資金不足によりワクチン保冷库が満足に設置できていないこと、徒歩でしかアクセスできない地域へのワクチン運搬に最長 10 日かかることが大きな課題となっています。



2013 年 ブータン王国向け支援実績（金額 11,322,857 円）

ワクチンと注射器	数量
BCG	110,000 人分
MR（麻疹、風疹混合）	28,000 人分
OPV（経口ポリオ）	20,750 人分
TD（破傷風、ジフテリア混合）	36,750 人分
DTP（ジフテリア、破傷風、百日咳混合）	20,000 人分
B 型肝炎	50,000 人分
注射器	220,000 本
コールドチェーン機器	数量
ワクチンキャリアーボックス	30 個
アイスライン保冷库	1 台

支援開始からこれまでのワクチン供与のべ人数：126 万人



 バヌアツ共和国 (2010 年より常時支援)

南太平洋に浮かぶ 83 の島からなるバヌアツは、リゾート地として知られていますが、人口の 77% は貧困状態にあります。細菌性髄膜炎 (Hib) の発症が太平洋諸国で最も多いバヌアツでは、Hib ワクチン接種の導入が急務でしたが、一部の富裕層の所得が高いために GNI (国民総所得) を基準にする国際支援は受けられませんでした。そこで JCV が要請を受け、支援を開始しました。Hib ワクチン導入にあたり、これまで別々に定期接種していた DPT (ジフテリア、百日咳、破傷風) と B 型肝炎に、Hib を加えた 5 種類のワクチンを同時に接種できる五価ワクチンを採用し、交通が不便なバヌアツでのワクチン接種の負荷を軽減しました。五価ワクチンは、1 バイアルに 10 人以上が入っている在来ワクチンとは異なり、1 人分のワクチンが個包装されているため、より容量の大きい保冷庫が必要となります。JCV はその拡充が必要となった保冷庫の導入も支援しています。

2013 年 バヌアツ共和国向け支援実績 (金額 14,322,952 円)

ワクチンと注射器	数量
五価 (ジフテリア、百日咳、破傷風、B 型肝炎、細菌性髄膜炎 (Hib))	7,186 人分
注射器	750 本
安全廃棄ボックス	490 個
コールドチェーン機器	数量
ソーラー保冷庫	10 台

支援開始からこれまでのワクチン供与のべ人数：32,500 人



 タジキスタン共和国 (2010 年に緊急支援)

タジキスタンは、1991 年のソビエト連邦解体にともなって独立した中央アジアの国で、現在も旧ソ連諸国の中では最も貧しい国といわれています。タジキスタンでは、2002 年にポリオ根絶が宣言されていましたが、2010 年 4 月に首都ドゥシャンベと南西部でポリオ発症が確認され、同年 5 月には 139 人に発症、うち 3 人が死亡する事態となりました。当時、政府が発表していたポリオワクチン接種率は 87% でしたが、実際は国全体で 50%、ドゥシャンベでは 24% でした。ポリオの感染拡大を止めるために、UNICEF タジキスタンと保健省より要請を受けて私たちが緊急支援した経口ポリオワクチンは、2010 年 11 月の全国一斉ポリオワクチン接種と翌年 4 月の追加接種に使われました。

2010 年 タジキスタン共和国向け支援実績 (金額 13,653,000 円)

ワクチンと注射器	数量
OPV (経口ポリオ)	318,000 人分



 ソマリア (2011 年より準常時支援)
(ソマリア連邦共和国、ソマリランド共和国*、プントランド・ソマリア国*)

ソマリアは、アフリカの角と呼ばれるアフリカ大陸北東部のアデン湾がインド洋へとつながる場所に位置しています。内戦が長く続くこの国は現在、元のソマリア連邦共和国と、独立を宣言した北西部のソマリランド共和国、北東部のプントランド・ソマリア国の 3 地域に事実上分割されています。内戦の影響でワクチン接種率が急速に低下したソマリアの子どもたちの未来を守るため、2011 年に UNICEF ソマリアより支援要請を受けました。ワクチン供給の他、ソマリランドの首都ハルゲイサとプントランドの首都ガローウェにコールドチェーンの中核となる中央保冷庫を建設しました。引き続き、ポリオワクチン接種キャンペーンの支援を予定しています。

2011 年 ソマリア向け支援実績 (金額 35,055,000 円)

ワクチンと注射器	数量
BCG	350,000 人分
麻疹	362,000 人分
TT (破傷風)	215,000 人分
コールドチェーン機器	数量
中央保冷庫建屋 (ソマリランド ハルゲイサ市)	1 棟
中央保冷庫建屋 (プントランド ガローウェ市)	1 棟
ウォークイン保冷庫 (40 m ³)	2 台
セキュリティ運用	1 式

*ソマリランド共和国とプントランド・ソマリア国は独立宣言を行っていますが、国際承認はいずれも得られていません。





マダガスカル共和国

(2012 年より準常時支援)

アフリカのインド洋に浮かぶマダガスカルは、アフリカでは希少な低い新生児死亡率と 5 歳未満児死亡率を維持している国でした。しかし 2009 年に憲法に則らないかたちで発足した新政府は、国際社会から支持されませんでした。

海外からの多くの支援も撤退し、資金不足になったマダガスカルでは、ワクチンの購入、コールドチェーンの維持管理や保健所スタッフの雇用ができなくなりました。場所によっては、保健所が閉鎖される事態にまで発展し、定期ワクチン接種もできなくなりました。

UNICEF マダガスカルと保健省から要請を受け、2012 年よりコールドチェーンの再構築にフォーカスして JCV は支援を開始しました。ワクチンの他、直接運転式ソーラー保冷庫の導入を支援しています。

2013 年 マダガスカル共和国向け支援実績 (金額 10,512,750 円)	
コールドチェーン機器	数量
直接運転式ソーラー保冷庫	8 台





シリア・アラブ共和国

(2013 年に緊急支援)

シリアは中東地域ではワクチン接種率の高い国でした。しかし、2011 年に始まった騒乱をきっかけに接種率が急低下し、周辺国では平均 84% の MMR ワクチン接種率が、シリアでは 39% にまで落ち込みました。

2013 年に、JCV は保健省と UNICEF シリアが共同で行う大規模な MMR ワクチン接種キャンペーンの支援要請を受けました。そこで、2013 年 6 月に緊急募金を始め、10 月に行われたキャンペーンを支援しました。また、10 月にはシリアで 14 年ぶりにポリオの発症が確認され、感染を抑えるために急遽立ち上げられたポリオワクチン接種キャンペーンも支援しました。現地スタッフの努力により、戦闘の激しい地域をはじめ、内戦の影響で辛い生活を強いられている子どもたちにもワクチンを届け、接種をしています。

2013 年 シリア・アラブ共和国向け支援実績 (金額 11,167,882 円)	
ワクチンと注射器	数量
OPV (経口ポリオ)	430,000 人分
MMR (麻疹、おたふく風邪、風疹混合)	19,500 人分
コールドチェーン機器	数量
ワクチンキャリアボックス	250 個
接種トレーニング	1 式
接種キャンペーン告知	1 式



©UNICEF/NYHQ2013-0924/OMAR SANADIKI



© UNICEF/NYHQ2013-0918/RAZAN RASHIDI

ポリオ撲滅を目指し、その先の支援へ…

1994 年、ワクチンで助かる感染症で 1 日に 8,000 人もの子どもが命を落としているという世界の現実を受けた細川佳代子理事長により創立された JCV。ポリオ根絶計画を推進し、根絶後の世界においてもワクチンで予防できるその他の感染症対策に取り組むことを主たる趣旨として創立され、この 20 年間ポリオやその他のワクチン接種普及に多くの問題を抱える後発開発途上国を中心に支援を行ってきました。常時支援、準常時支援、緊急支援と、支援先国の状況に応じて、民間団体ならではの柔軟性を活かして臨機応変に活動を続けて参りました。

ポリオウイルスは、2014 年現在も根絶には至っておらず、ポリオ常在 3 カ国（アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタン）のほか、シリアやソマリアでも発症が確認されています。本年 5 月 5 日には WHO からポリオの「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」が宣言され、さらなる国際社会の連携とポリオ蔓延の対策が必要になっています。

20 周年を機に今一度原点に立ち返り、活動開始から 20 年を経ても実現していないポリオ根絶に取り組む決意を新たにしました。今回の創立 20 周年記念募金でお預かりするご寄付で、流行の発生源のひとつとなっているパキスタン北ワジリスタン地域のワクチン接種活動、および 2013 年に再び発症して感染が広がっているソマリアでのポリオワクチン接種キャンペーンに現地パートナーである UNICEF と協働して臨みます。



© UNICEF/Pakistan/2013/AsadZaidi

②広める ワクチン接種の重要性を伝える啓発活動



講師派遣・事務局訪問

学校・団体・企業などからご依頼を受け、スタッフが講演に伺っています。JCVの活動紹介に合わせて、感染症の脅威、世界のワクチン事情、みなさまからお預かりしたご寄付がどのように現地で活用されているかなど、映像を交えてお話しいたします。ご来局可能な少人数グループには、事務局にお越しいただいています。



イベントの開催

世界の子どもたちが感染症の脅威にさらされている現状を多くの方に知っていただくために、年に数回イベントを行っています。視察調査より帰国したスタッフの報告から、専門家による感染症やワクチンについてのより詳細な講演まで、幅広く開催。開発途上国におけるワクチン接種普及活動の重要性についてお伝えしています。

③未来につなげる 子どもの未来につながるその他の活動



東日本大震災支援 JCV 子どもの笑顔プロジェクト

私たちはこれまで、世界中にできるだけ多くの“子どもたちの笑顔”を生み出したい、その思いひとつで途上国にワクチンを贈り続けてきました。しかし2011年3月11日、その活動を支えてくれている自国、日本が大災害に見舞われました。

被災した子どもたちの傷ついた心を癒し、心からの笑顔を取り戻すためにできる限りの支援をすることが私たちの役割だと考え、同年4月、被災した子どもたちを支援するプロジェクト「JCV 子どもの笑顔プロジェクト」を立ち上げ、活動を開始しました。

みなさまがお寄せくださった約8,500万円のご寄付により、2014年3月末まで、2年半の活動で200カ所以上の施設を訪ね、約15,000人の子どもたちに笑顔を届けることができました。

これまでに生み出したたくさんの子どもたちの笑顔を力に、2014年いっぱい活動を続けます。

(募金活動は2013年12月末をもって終了しています。)



支援先国との協働

現地 UNICEF 事務所からのメッセージ



UNICEF ミャンマー事務所
代表
ベルトランド・ベンヴェル

ミャンマーの子どもたちとその家族になりかわって、みなさまが 20 年間、世界の子どもたちに健康な成長をもたらす取り組みを続けて来られましたことを心よりお祝い申し上げます。また、この場をお借りして、みなさまのご支援が、常にミャンマーの子どもたちをワクチンで予防可能な感染症から守ってくださったことに深く感謝申し上げます。

1995 年から現在までのみなさまのご支援は、ミャンマーの公衆衛生上重要な 2 つの感染症の撲滅に大きく寄与しました。ひとつは今年のポリオ撲滅、もうひとつは 2010 年の母親と新生児の破傷風の根絶です。まさに日本文化の象徴ともいえるべき「分かち合いの精神」による心のこもったご支援に感謝申し上げます。私たちは、みなさまとすばらしい関係を築いてまいりました。今後も、すべての子どもたちに公衆衛生として効率も効果も高いワクチン接種という投資を続けて、新しい世代の育成と一緒に取り組んでまいりましょう。あらためまして、この記念すべき節目をお祝い申し上げますとともに、ますますのご発展をお祈り申し上げます。



UNICEF ラオス事務所
代表代行
ジュリア・リース

2007 年以來のご支援がなければラオスの何万人という子どもたちはワクチンの接種を受けられなかったと思います。みなさまのご支援は、ラオスの定期ワクチン接種の拡大とラオス中の家族の健康に大きく貢献しています。例えば、ラオス北部の少数民族コー族の村ではみなさまのご支援で子どもたちは必要なワクチン接種をすべて受けることができています。27 歳のお母さんフーパさんは子どもの頃ワクチン接種を受けることができず、よく病気にかかっていました。だから今、彼女は自分の子どもたちに破傷風、麻疹、そしてポリオを含む病気に対するワクチン接種を受けさせています。フーパさんは、もし JCV の支援がなければこのような接種は受けさせられなかったと話してくれました。JCV 支援者のみなさまからの心のこもったご支援が、ラオスの遠隔地や少数民族へのワクチン接種を可能にしているのです。

8 年間にわたるご支援に対し、UNICEF ラオスは保健省とともに、そして私自身から、ラオスのすべての家族に代わって深く感謝申し上げます。



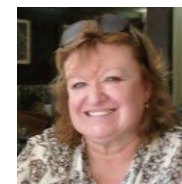
UNICEF ブータン事務所
代表
シャヒーン・ニロファー

JCV を支援されているみなさまが、子どもの命を守るうえで最も大切なワクチンを世界の子どもたちに 20 年間贈り続けて来られたことを心よりお祝い申し上げます。

本年、ブータンのポリオフリー宣言が認められたとき、90%以上の接種率維持への JCV の功績を現地メディアが大きく取り上げました。ワクチンさえあれば防ぐことができる感染症から子どもたちを守る拡大予防接種計画は、みなさまからのご支援に支えられているのです。

ブータンはこの 7 年間、JCV 支援者のみなさまからワクチンとコールドチェーン機器の支援を受けることができ、このうえなく幸せです。みなさまのお気持ちのこもったご支援は遠隔地に住む子どもたちにまで届いています。そして、JCV が創立 20 周年を迎えるにあたり、私たちが支援者のみなさまへの感謝とお祝いの言葉を述べることができましたことを光栄の至りに存じます。

最後にここブータンの言葉で感謝の意を表します。
“Thashi Delek!” (ありがとう!)



UNICEF パシフィック事務所
UNICEF および国連
バナアツ合同事務所代表
ダイアン・アラキ

UNICEF バナアツを代表して JCV の創立 20 周年を心よりお祝い申し上げます。バナアツの Pikini's (子どもたち)、保健省そして UNICEF バナアツは、JCV 支援者のみなさまがワクチン、コールドチェーン機器そして保健省への助言を通してこの国の定期ワクチン接種を支えてくださっていることに深く感謝しています。みなさまの力強い支援がバナアツの子どもたちを感染症から守ってくださっています。しかし、私たちは、JCV 支援者のみなさまに引き続きの支援をお願いしなければなりません。地理的条件の厳しいバナアツでは、健康な成長に不可欠なワクチン接種をすべての Pikini's に行き渡らせるためにまだまだ厳しい道程があります。この目標は、JCV、保健省、UNICEF のチームで臨まなければ達成できません。どうかみなさま、おひとりおひとりのお力添えを引き続きよろしくお願いいたします。最後にバナアツの Pikini's から日本のみなさまの愛情溢れるご支援に“Tank U Tumas!” (ありがとう!) をお伝えします。



子どもたちとの交流



UNICEF ソマリア事務所
代表
シカンダー・カーン

創立 20 周年を心よりお祝い申し上げますとともに、みなさまのご支援に深く感謝申し上げます。ワクチンさえあれば防げる病気で多くの子どもたちが命を落とすソマリアにおいて、JCV の動きは非常に大きな貢献をしています。JCV と UNICEF ソマリアとの協働は、支援者のみなさまがあってこそのものであります。私たち UNICEF ソマリアスタッフ一同は、みなさまに深く感謝申し上げます。

2011 年のみなさまからのご支援で、ハルゲイサ市とガローウェ市それぞれに 40m³ の保冷庫が完成。ソマリアのワクチン保冷庫の収容限度は飛躍的に拡大しました。それによりワクチンを安全に保ち、しかも常時供給することが可能になり、ソマリアの子どもたちをポリオや麻疹などの感染症から守ることができるようになりました。支援者のみなさまの支えによる JCV と私たちの緊密な協力体制は本当に意義深いものであり、今後のソマリアのワクチン接種を支え、子どもたちの命を守り続けます。ワクチン接種を普及させるみなさまの重要な働きが世界中の子どもたちへと届けられることを心よりお祈り申し上げます。



UNICEF シリア事務所
代表
アブデル・ジュリル

このたび、シリア・アラブ共和国の子どもたちのために、あたたかいご支援をいただき心より感謝申し上げます。JCV 支援者のみなさまのご協力により、約 2 万人の子どもたちに MMR ワクチン接種を行うことができました。

14 年ぶりに確認されたポリオ感染の拡大を抑えるための 43 万人分のポリオワクチン接種と、ワクチンを届けるためのワクチンキャリアーに使用させていただきました。また、定期ワクチン接種、接種キャンペーンの周知や実施、さらにシリア国内のワクチン接種事業への意識の拡大、専門家の育成にも大きく貢献してくださいました。

みなさまのご支援なくしては、シリア国内にいる何百万人という子どもたちの大切な命を守ることは決して成し得ませんでした。あらためまして、みなさまのあたたかいご支援に深く感謝申し上げます。より多くのシリアの子どもたちがワクチンで予防可能な感染症から守られ、未来に向けて確実な一歩を踏み出せるよう、引き続きのご支援を、何卒よろしく願い申し上げます。



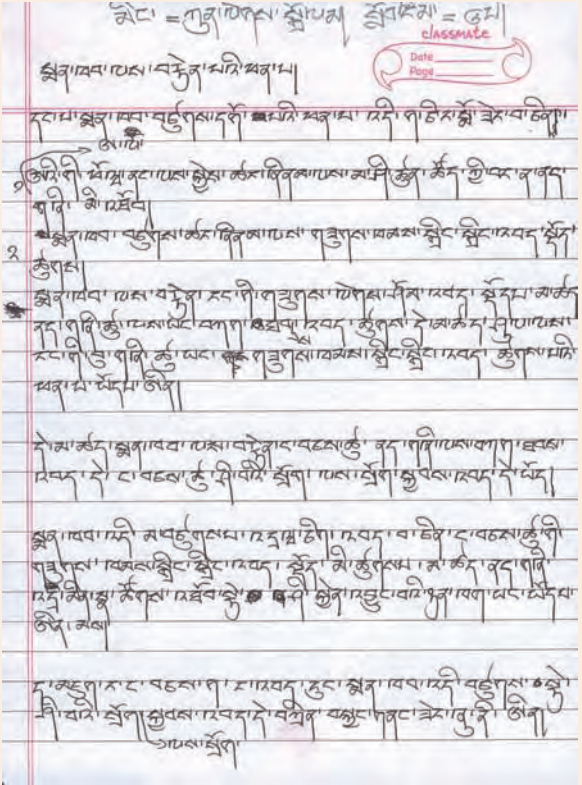
©UNICEF/Jordan-2013/Masciarelli

ワクチンの恩恵

ワクチン接種を受けることによる恩恵はたくさんあります。最初に、もし私たちが受けるべき時期に受けるべき種類のワクチンの接種をきちんと受けていると死に至るような病気にかからずに済みます。私たちは健康でいられます。ワクチン接種は、私たちを病気から守ってくれるだけでなく、健康に成長させてくれます。私たちの国の子どもたちは強く健康になります。そして、小さいときに亡くなるということが起こらなくなります。もし、私たちがワクチン接種を受けなければ、健康でいられなくなり悪化します。ワクチン接種は、病気を取り去り、早くに亡くなることを避けるためのとても素晴らしいチャンスなのです。

最後にみんなワクチン接種を受けるべき時に受けて、病気の危険を避けるなくてはなりません。

ブータン王国 ダガナ中学校 6 組
キンレイ・デュマ



ゾンカ語から英語への翻訳は、日本ブータン友好協会様を通じ、日本に留学中のカルマ・ワンチュクさん、ペマ・カンドゥさん、ツェリン・ゲルツェンさん、ケサン・ワンチュクさん、ウゲン・ペンジョールさん、レキ・チョデンさんにボランティアでご協力いただきました。



みなさまとともに

さまざまなリレーションシップ

僕のルール

プロサッカー選手 今野泰幸さんのルール 「試合出場ごとに 500人分のワクチンを贈る」

子どもたちにサッカーと夢を追いかけることの楽しさを伝えたいと開催していた「今野 CUP」の企画を進める中で、JCV の活動を知りました。たとえば 20 円でポリオワクチン1人分を支援できて、そのワクチンで一人の子どもが救えるという具体的に内容がわかるところがいいなと感じました。今は、試合に出場するごとに 500 人分の寄付をしています。支援のやり方はいろいろあると思いますが、試合に出場し続けることが僕の大きな目標のひとつであり、そのためにも頑張っているからです。自分の頑張りが世界中の子どもたちの役に立てているなら嬉しいです。



©GAMBA OSAKA

ミュージシャン 真戸原直人さんのルール 「CD 売上げのアーティスト印税を寄付する」

ワクチンがないために亡くなる子どもがいることを知り、あらためて自分は恵まれた環境で生きていることを痛感しました。寄付のやり方は、アンダーグラフのメンバーとも話をして、アーティスト印税を寄付するのが自分たちらしい方法だということになりました。僕自身は、できるだけさっさとやりたいと思っています。たとえば、のどが渇いている人がいたら、さっと自分の水を差し出すような感じで。2012 年、JCV のみなさんと一緒にミャンマーに行き、支援先国の子どもたちに接し、ワクチンの必要性も実感できました。これからもこの活動を続けていきたいと思っています。



さまざまなご支援

大丸松坂屋百貨店様のご協力

株式会社大丸松坂屋百貨店様は、2009 年 11 月よりスタートした「ペットボトルキャップを集めて、世界の子どもたちにワクチンを届けよう!」のお取り組みを皮切りに、チャリティイベントによるタイアップ協力、オリジナルチャリティピンバッジ販売など、多岐にわたって支援を継続してくださっています。

ペットボトルキャップの回収では、2013 年 10 月に回収量 5,300 万個を突破し、ポリオワクチン換算で 10 万人分を達成しました。2011 年から 2013 年には、JCV が実施した東日本大震災支援「JCV 子どもの笑顔プロジェクト」にも積極的にご協力いただきました。



大丸松坂屋百貨店

タイアップ

トップツアー様のご協力

トップツアー株式会社様は、「旅」を通じてお客さまに「感動を創造する」ことを目指している企業です。Web に掲載されている海外ツアーにお客様がお申込みされると、ご参加者 1 名につきポリオワクチン 2 人分を贈る、という寄付のルールを取り入れてくださっています。みなさまが旅を楽しむことが、トップツアー様を通じた子どもワクチン支援活動につながっているのです。



和光堂様のご協力

和光堂株式会社様は、「子どもたちの健康と健やかな成長を応援したい」という理念に基づいて、同社が発売する乳幼児用ペットボトル飲料の売上の一部を JCV の活動に寄付する『笑顔のじかんを届けよう!プロジェクト』を開始。「子どもたちの命を守りたい」という創業の理念と JCV の「ワクチンさえあれば助かる小さな命を守りたい」という創立の理念が一致し、JCV へのご支援がスタートしました。以来、イベントへのご参加やご協賛など、多岐にわたって JCV の活動を支えてくださっています。



コロバン様のご協力

株式会社コロバン様は、1924 年創業、日本で初めて本格的なフランス菓子を提供した老舗です。「原宿本店で発売されている地域限定商品「原宿ロール」を 1 本販売するごとに、ワクチンを寄付」という支援をご継続され、これまでに 2 万人を超える子どもたちのワクチン購入費をお寄せいただきました。「原宿ロール」は良質な材料をたっぷりと使ったその味の良さに加えて、社会貢献ができるスイーツとしても人気を博しています。



原宿コロバン 東京

マッチング

オリエンタルランド様のご協力

OLC グループこどもスマイル基金様は、株式会社オリエンタルランドの従業員のみなさまの任意参加による基金です。毎月の給与と賞与の端数および 100 円を 1 口とした任意の口数を、給与引き落としにより寄付として積み立て、同額を株式会社オリエンタルランド様がマッチングし、世界の子どもたちのために活動している 5 つの団体に寄付を行うというしくみです。JCV へは、子どもたちの命にかかわる「ワクチン」に関する取り組みへの支援としてご協力いただいています。オリエンタルランド様は、グループで展開している事業と関わりの深い“子どもたち”を取り巻く困難な状況を、少しでも解決したいという願いから、従業員のみなさまと会社と一緒に取り組んでくださっています。



みなさまとともに

子どもワクチンサポーター

子どもワクチンサポーターによる毎月募金は、毎月定額を銀行口座やクレジットカードから自動的にご寄付いただくシステムです。毎月募金によるご寄付は全体の約 15% を占め、支援先国へのワクチンの安定的な供給を支える「頼もしい存在」となっています。

個人のみなさま

小巻亜矢さん

「私にできることは何か？」この問いを持つことで社会に参加し、ボーダーを超えて世界とつながれていると感じます。微力であっても無力ではない、この意識が誰かの希望につながると信じ、みなさまの活動にご一緒させて頂きました。それぞれの想いが集まり、聖なる河の流れとなって子どもたちの笑顔に届きますように。



菅敏一さん

私は福岡在住のカメラマンの菅敏一と申します。JCV を知る事になったのは活動キャンペーンのカメラマンとして仕事に携わったのがきっかけでした。2006 年の事でした。仕事も無事終わり、ホッとしたとき何となく心に残る物が有りました。本当に終わったのかという思いと、当時福岡ソフトバンクホークスの和田毅投手の言葉でした。自分にもできる事（ルール）とはいえなかなか続かない自分が有りますが、そんな理由で始めた毎月募金です。助ける事のできる命のお手伝いができればと、力まず長く続けられるようにとの気持ちで今日に至っています。活動報告などを拝見して日常で忘れがちな気持ちを思い出させていただいています。子どもたちの笑顔が続きますようにとの思いで、今後も微力ながらお手伝いさせていただこうと思っています。



島根千恵さん

私は、勤務先で現在携わっている「古着 de ワクチン」というサービスを通じて支援させていただいております。事業を通しての支援であれば継続的に、より多くのワクチンを届けることができます。JCV の現地視察を経験させていただく機会に恵まれ、たくさんの方々が真摯に関わっていることで、支援が円滑に行き届いていることを知りました。現地の方々は「継続した支援」を望んでいきます。感染症が減少してきている現状を、直接知ることができ、継続した支援こそが感染症の撲滅につながると実感しました。そして、個人としても活動に参加したいという気持ちが高まり、子どもワクチンサポーターになりました。今後も、支援先国の子どもたちやお母さんの笑顔が増えるよう、今まで以上に支援をさせていただきたいと思っています。



半海いづみさん

子どもワクチンサポーターの半海です。私は、仕事を通じ、JCV のお手伝いをする機会を得て、毎月募金を始めました。たまたま私の後輩がスタッフとして働いていたことがきっかけで JCV を知り、イベント告知の仕事にボランティア協力したのです。そのとき、JCV のパンフレットやニュースリリースを見せてもらい、また、活動内容を直接聞くことができたので、すんなりスタートすることができました。仕事をしている者にとって、一度の手続きで募金がずっと継続できることは、とても手軽でいい方法だと思っています。



神戸勇輝さん

僕の少年時代はサッカーボールを追い、プロ選手になることを夢見ていました。中学校の 3 年間はプロにちょっと近いクラブチームでプレーし、ライバルとポジションを競いました。最初は僕が控えだったのが、レギュラーの彼からテクニックを教えてもらったり、お互いのプレーを学びあったりするうちに互角な立場になることができました。しかし、広範囲な地域からメンバーが集まっているクラブチームでは、「上には上がいるものだ」と痛感させられたことも事実です。そこで僕は、高校入学とともに学校の部活動のサッカーに戻り、現在も楽しむサッカーを続けています。プロ選手になることはできなかったけれど、僕はサッカーから大きなことを学びました。何かに打ち込んでいるときは、常に楽しいということです。このことは社会人となった現在も、仕事に打ち込むことで、日々楽しく過ごし、良い結果を出すという夢につながりました。途上国の子どもたちにも夢を追い、何かに集中して取り組む楽しさを、是非経験してもらいたいと思っています。これからも子どもワクチンサポーターとして、支援先国の子どもたちの成長と未来をサポートしていきたいと思っています。



企業のみなさま

公洋商事様のご紹介

公洋商事株式会社様は、横浜市にある自動車用・工業用オイル製品の総合商社で、アメリカのウイン・オイル社の総輸入・販売元として全国に販路を持つ歴史ある企業です。ある支援企業様のご紹介で、2008 年から商品タイアップによるご協力をスタート。2012 年からは、子どもワクチンサポーターとして JCV の活動を力強く支えてくださっています。

公洋商事株式会社

千鳥屋宗家様のご紹介

大切に受け継がれてきた伝承の技と、召し上がる方を想う心で、その永い歴史を支えてきた千鳥屋は、創業 370 年余の時を経て、千鳥饅頭や寛永最中をはじめとする確かな味わいを届ける菓匠です。株式会社千鳥屋宗家様は 2006 年のイベントにご協賛をいただいたことがきっかけで、ご支援を開始。子どもワクチンサポーターの一員として、継続して私たちの活動を力強く支えてくださっています。

創業寛永七年
菓匠 千鳥屋宗家

団体概要

サポーター



ワクチン大使 竹下 景子さん

JCV が 20 才になりました。夢のようです。私のワクチン大使歴は来年で 10 年。主な支援先国は、ミャンマーを始めラオス、ブータン、バヌアツへと広がり、東日本大震災以降は国内でも活動しています。今日まで支えてくださったみなさまの善意には心から感謝しています。3 年前の震災以降、ボランティア活動をより身近に感じるようになりました。その根っこには、ともに生かされているという思いがあります。たとえ国が違っても、私達は同じ地球の隣人同士。子どもの健康を守るのは明日の希望を育むことです。地球上から六大感染症が無くなる日まで、一緒に活動していきましょう。



和田 毅さん



早見 優さん



三國 清三さん



進藤 奈邦子さん



鏡 リュウジさん



ハローキティ

スポンサー



岡三証券株式会社



株式会社エルモ社



株式会社柴橋商会



ピーアークホールディングス株式会社



株式会社マルハン



三井住友海上あいおい生命
三井住友海上あいおい生命保険株式会社

役員

理事長	細川 佳代子	
副理事長	早水 研	公益財団法人日本ユニセフ協会 専務理事 事務局長
常務理事	大石 倫義	認定 NPO 法人世界の子どもにワクチンを 日本委員会 事務局長
理事	蒲島 郁夫	熊本県知事
理事	藤森 益弘	学校法人帝京大学 冲永国際教育研究所 兼任教授
理事	松田 明仁	ITC ジャパン株式会社 前代表取締役
理事	四藤 豊貴	株式会社日本デザインセンター インタラクティブ室 前室長
理事	剣持 睦子	認定 NPO 法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川 会長
理事	若林 清造	一般財団法人自治総合センター 理事長
理事	櫻田 紳策	独立行政法人国立国際医療研究センター 国際医療協力局 派遣協力課
理事	酒井 綱一郎	株式会社日経 BP 取締役
理事	伊達 百合	一般財団法人角川文化振興財団 事務局次長
理事	清水 あつ子	元富士ゼロックス株式会社 CSR 部社会貢献推進 室長
監事	東郷 良尚	公益財団法人日本ユニセフ協会 副会長
監事	西邨 博行	西邨税理士事務所

2013 年度会計報告

収支計算書

(2013 年 1 月 1 日～2013 年 12 月 31 日まで)

		科 目	金 額
事業活動収支の部	事業活動収入	寄付金収入	266,215,034
		募金収入	243,826,259
		震災支援募金収入	22,388,775
		雑収入	128,877
		受取利息収入	13,091
		その他	115,786
	事業活動収入計		266,343,911
	事業活動支出	事業費支出	278,742,874
		ワクチン供与活動費	175,371,216
		広報 / 啓発活動費	28,167,336
		募金活動費	13,502,988
		ボランティア活動費	863,927
		東日本大震災支援活動費	16,861,162
人件費		31,701,517	
通信運搬費支出		3,733,224	
印刷物関係費		1,182,913	
事務所経費		3,853,124	
事業関連費		3,505,467	
管理費支出		21,473,343	
人件費		15,416,249	
通信運搬費支出		104,514	
消耗品費支出		937,321	
事務所経費		3,357,490	
租税公課支出		157,550	
その他		1,500,219	
事業活動支出計		300,216,217	
投資活動収支の部	投資活動支出	特定資産取得支出	464,448
		退職金積立金支出	464,448
		固定資産取得支出	0
		什器備品購入支出	0
		ソフトウェア購入支出	0
	投資活動支出計		464,448
財務活動収支の部			
財務活動収支差額		0	
予備費支出			
当期収支差額		-34,336,754	
前期繰越収支差額		98,488,822	
次期繰越収支差額		64,152,068	

(単位:円)

貸借対照表

(2013 年 12 月 31 日現在)

科 目			金 額
資産の部	流動資産	現金預金	68,959,521
		現金預金	20,793,947
		東日本大震災支援現金預金	48,165,574
		立替金	39,000
		募金切手	361,456
	流動資産合計		69,359,977
	固定資産	その他固定資産	
		建物付属設備	3,019,862
		什器備品	1,538,194
		ソフトウェア	861,219
商標権		258,700	
電話加入権		221,240	
敷金		3,381,000	
退職金積立金		1,897,590	
その他固定資産合計		11,177,805	
固定資産合計		11,177,805	
資産合計		80,537,782	
負債の部	流動負債	未払金	67,437
		預り金	3,063
		未払費用	5,137,409
	流動負債合計		5,207,909
負債合計		5,207,909	
正味財産の部	一般正味財産		
	正味財産合計		75,329,873
	負債及び正味財産合計		80,537,782

(単位:円)

上記は財務諸表の抜粋です。より詳しい活動報告につきましては、ウェブサイト（www.jcv-jp.org）をご覧ください。